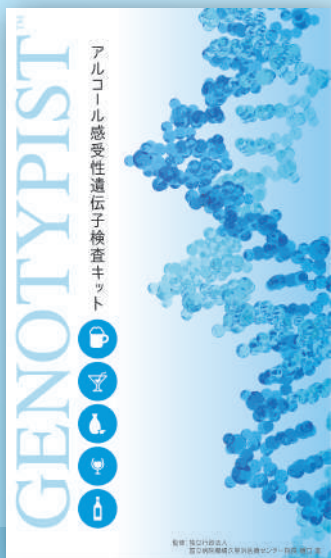


GENOTYPIST

アルコール感受性遺伝子検査キット

お酒と楽しく長く付き合うために

自分のアルコール体質をチェックしましょう!



お酒は鍛えれば強くなる?お酒の強い人は依存症にならない?
アルコールに関する「常識」「風潮」は本当に正しいのでしょうか?
一人一人の酔っ払いやすさ、二日酔いのなりやすさなどは、
かなりの程度、遺伝的体質で決まります。

2種類の
遺伝子を
Check

自分で出来る
簡単
採取

わかりやすい
DNA結果
レポート

具体的な
アドバイス

- ・医療機関での予防医療のために
- ・社員の飲酒による健康障害や飲酒運転等のリスク回避に

6,000円 (税込)

何を分析して何がわかるのか?

検査結果は9タイプ

タイプ	ALDH2 [活性型]	ALDH2 [低活性型]	ALDH2 [非活性型]
ADH1B [低活性型]	依存症リスクが最も高い 大酒飲みタイプ W1型 (2.8%)	飲酒による健康リスクが 最も高いタイプ R1型 (1.8%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ RR1型 (0.3%)
ADH1B [活性型]	つい飲み過ぎてしまう 大酒飲みタイプ W2型 (16.0%)	飲酒による健康リスクが 高いタイプ R2型 (14.4%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ RR2型 (3.3%)
ADH1B [高活性型]	つい飲み過ぎてしまう 大酒飲みタイプ W3型 (30.8%)	飲酒による健康リスクが 高いタイプ R3型 (24.7%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ RR3型 (5.9%)

人間の持つアルコールに対する感受性(酔いやすさ、お酒の残りやすさ)は、主に2つの遺伝子(ADH1BとALDH2)で決定されます。自身のアルコール体質を遺伝子レベルで知ることにより、単にお酒が強い(飲める)、弱い(飲めない)を判断するだけでなく、「どんな体質なのか?」を理解し、「飲酒による健康障害のリスク回避」に役立てることが大切です。

Point
1

具体的なレポートを提示

ご自身のアルコール体質の特徴や予測されるリスク、現在の飲酒習慣もチェックできるレポートです。

アルコール体質の検査結果

アルコール体質の特徴

予防のポイント

栄養についてのアドバイス



Point
2

自分で出来るカンタン採取

アルコール感受性遺伝子検査キットは、とっても簡単！付属の綿棒をつかって口の中の粘膜を採取して郵送するだけ。面倒なことや痛い思いをすることは一切ありません！

最大の個人情報だからこそ、個人情報を最大限配慮

情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際規格 ISO/IEC27001:2013 取得。

個人情報セキュリティに対して当社の情報資産における管理体制が、国際標準規格に適合したものであると第三者機関に認められたことを示しています。

当社は、事業スタート開始から継続して審査をクリアしています。



監修

独立行政法人
国立病院機構
久里浜医療センター

院長
樋口進 先生

(学歴・職歴)

1979年 東北大学医学部卒業
1988～1991年 米国立保健研究所(NIH)留学
2011年 (独)国立病院機構久里浜
アルコール症センター院長

(専門)

臨床精神医学、アルコール関連問題の
予防と治療、精神疾患の臨床遺伝研究、
アルコール関連問題の疫学

(委員等)

世界保健機関(WHO)研究・研修協力
センター長、WHO 専門家諮問委員
(薬物依存・アルコール問題担当)
2012/2013年 OECD アルコールの
経済への影響専門家委員会政府代表
専門委員 他多数



JA 健康管理センターあつぎ

JA 健康管理センターさがみはら



お問い合わせ・お申し込み 予約窓口：JA 健康管理センターあつぎ業務課 TEL 046-229-3731